

和歌山県関係史料の来歴

昭和 24 (1949) 年より、水産庁が財団法人日本常民文化研究所（現在の神奈川大学日本常民文化研究所の前身）に委託して行われた、全国的な漁業・漁村関係資料の収集保存事業である「漁業制度資料調査保存事業」（以下事業と省略）は、5 年 5 か月ほどの期間に、優に全国 1000 か所に達する資料採訪を行い、その成果は 220 字詰の原稿用紙約 30 万枚の筆写原稿として残されている。それら筆写稿本は現在、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所図書資料館に架蔵されており、その副本が神奈川大学日本常民文化研究所にも保管されている。今回作成した『和歌山県関係史料目録』には、この収集保存事業の一環として、昭和 25 (1950) 年に事業を推進した調査員によって採訪された「松宮太郎兵衛家文書」（和歌山県有田郡湯浅町）、「野原茂八家文書」（有田郡広町）、「中川悦治家文書」（日高郡衣奈村）、「湊漁業組合長家文書」（田辺市湊）、「堅田漁業協同組合文書」（西牟婁郡西富田村）、「中漁業協同組合文書」（西牟婁郡西富田村）の 6 つの資料群の目録が含まれている。それぞれの資料群について、採訪の状況およびその後の伝来・収蔵にいたる経緯について記す。

事業の一環で行われた大規模な和歌山調査は、昭和 25 (1950) 年の 10 月に行われており、月島の事業を推進する事務室でその任に当たっていた所員の大半に、東京大学史料編纂所の佐藤進一や服部一馬等も加わり、総勢 12 名が 5 つの班に分かれ、およそ 2 週間にわたって県内の海岸線を隈なく採訪している。和歌山県は古来より漁業の先進地として知られており、鰯漁に用いる八田網や鰯を生餌として使う鰹溜釣漁等、新たに開発された漁具・漁法の一部は全国各地に伝播していった。事業を主導した宇野脩平自身、和歌山県粉河の出身であったこともあって、和歌山調査は事業を担った日本常民文化研究所月島分室の総力を挙げた調査となった。なお、本目録に収載した 6 つの資料群の採訪地は、現在の行政区分で言うと有田郡湯浅町、広川町、日高郡由良町、田辺市、西牟婁郡白浜町である。

<松宮太郎兵衛家文書>

採訪時期は昭和 25 (1950) 年 10 月で、松宮太郎兵衛家の「太郎兵衛」は代々の当主が名乗る通り名である。なお、採訪に際しての書類には松宮百合子氏の名が記載されていた。そのため、平成 18 (2006) 年に刊行した『中央水産研究所所蔵古文書（漁業制度資料）の概要 ー全 100 資料群の概要と収集・整理の経過ー』（独立行政法人水産総合研究センター 中央水産研究所・神奈川大学日本常民文化研究所）では「松宮百合子家文書」としている。しかし、本資料群の史料に「松宮太郎兵衛」の名が頻出し、現地調査等の結果から、漁網製造に携わった代々の当主が「太郎兵衛」を名乗っていたこと、現地においてもその家名で知られていたことが分かった。そのような経緯に照らして、ここでは「松宮太郎兵衛家文書」とする。

昭和 26 (1951) 年 6 月に刊行された『漁業制度資料目録第 3 集全国篇Ⅱ』（日本常民文化研究所・水産庁資料整備委員会）に「松宮百合子家文書」の簡易目録が掲

載されており、現在水産資源研究所図書資料館に収蔵されている同資料群の内容とほぼ一致する。したがって、昭和 25 年の探訪時の資料がすべて現在図書資料館に収蔵されており、その後の散逸・移動等はなかったものと考えられる。

松宮太郎兵衛家は湯浅町の御蔵町で代々漁網の製作、販売を担っていたようで、「網組」と呼ばれる同業の家が数軒、御蔵町に集住していたことが、同資料群内に「網屋仲間」（目録番号 37）「網職仲間」（目録番号 53）等の記述とともに、「太郎兵衛」他数名の名が書かれていることから分かる。また、同家文書には、「日誌」と書かれた、概ね 200 頁前後の冊子体の資料が含まれている。これらは整理の過程で別の整理番号が付されていたため、目録の末尾に「日誌」として別に目録を掲載している。詳細については「史料の概要と特色」および「史料紹介－内国勸業博覧会史料と「日誌」から見る松宮太郎兵衛」を参照いただきたい。

<野原茂八家文書>

探訪時期は昭和 25（1950）年 10 月で、『漁業制度資料目録第 3 集全国篇Ⅱ』（昭和 26 年、日本常民文化研究所・水産庁資料整備委員会）に記載されている史料 4 点はいずれも蝦夷地の地図等の北海道に関連する史料で、現在水産資源研究所図書資料館に収蔵されている同資料群の内容と全く違う。恐らく誤記であろう。本資料群の 4 点の史料のうち、3 点に「廣村 源助」が宛名としてみえており、いずれも享保 17（1732）年の田畑の売渡に関する史料である。残る 1 点も近世期の史料と思われる、近代の史料は含まれていない。野原家は紀伊水道へ流れ込む広川をはさんで、湯浅町の対岸に位置する廣村（現有田郡広川町）に所在していたと考えられる。近世期の和歌山藩時代は湯浅組に属していた。

<中川悦治家文書>

探訪の書類が残されていないため正確な探訪時期は不明であるが、史料はいずれも現在日高郡由良町小引にある戸津井浦の地引網等の漁業に関するものであることから、同所の旧蔵史料であろうと思われる。上記の収集事業における日高郡の調査はやはり昭和 25（1950）年 10 月のことで、おそらくその頃に合わせて探訪されたものと思われ、『漁業制度資料目録第 3 集全国篇Ⅱ』にも目録の記載があり、現在水産資源研究所図書資料館に収蔵されている史料の内容と一致する。史料は慶應元（1865）年から明治 18（1885）年までの、鰯地引網漁に関連するものである。

<湊漁業組合長家文書>

「中川悦治家文書」と同様、探訪の書類は残されていないが、『漁業制度資料目録第 3 集全国篇Ⅱ』に目録が記載されており、昭和 25（1950）年 10 月の同地の調査において探訪されたものであろう。上記の目録に 6 点の史料について記載されており、いずれも大正 2（1913）年から同 9 年（1920）までの「権現丸」による操業の

勘定関係史料である。資料群名に「湊漁業協同組合長」の名が付いているが、漁業協同組合の運営に関する史料ではない。なお、湊漁業協同組合が所在していた田辺市の旧湊地区には現在和歌山南漁業協同組合湊浦支所があり、この辺りの現在の字名は磯間である。

< 堅田漁業協同組合文書 >

事業における昭和 25 (1950) 年 10 月の和歌山調査に際して採訪された史料の採訪書類には、「堅田重作」名のものであり、住所は西牟婁郡西富田村堅田とある。一方、『漁業制度資料目録第 3 集全国篇Ⅱ』には「堅田漁業協同組合文書」の目録があり、「寄贈分」3 点と「借用分」2 点に分けて目録が記載されている。現在水産資源研究所図書資料館に収蔵されている資料は 3 点で、上記の目録にある「寄贈分」の標題と一致し、史料も堅田漁協の運営に関連するものである。なお、同漁協は和歌山県西牟婁郡白浜町の堅田に現在も所在している。

< 中漁業協同組合文書 >

採訪に関連する記録によると、採訪時期は、他の和歌山県の資料群と同様、昭和 25 (1950) 年 10 月で、『漁業制度資料目録第 3 集全国篇Ⅱ』には 3 2 点の史料が記載されている。ただし、現在水産資源研究所図書資料館に収蔵されている史料は、詳細な整理の結果 82 点にのぼるが、上記の目録に記載されていて、現在の収蔵資料には含まれていないと考えられる史料が 9 点程度ある。採訪書類には資料群の返却が行われた節もあることから、あるいは何らかの事情によって一部のみ返却したのかもしれないが、詳細は不明である。史料は、明治 42 (1909) 年から大正 15 (1926) 年までの漁業経営帳簿によって大半がしめられている。なお、中漁業協同組合は、採訪時の西牟婁郡南富田村中に所在していたが、現在の南富田村は西牟婁郡白浜町に属し、漁協も和歌山南漁業協同組合白浜支所に統合されている。

本目録の作成には多くの地域の方々のご協力があった。特に湯浅町教育委員会の山本隆重氏、中原七菜子には資料閲覧に際してご手配等のご協力をいただき、文化財保護審議委員の生田俊示氏にはやはり資料閲覧に便宜を図っていただいた上に、資料についてのご教示をいただいた。また、松宮俊樹氏には、松宮太郎兵衛家に関連する資料の閲覧や家の歴史に関する貴重なお話を伺うことができた。記して感謝の意を表したい。

(文責 越智信也)